



生活支援コーディネーターの活動基盤の強化に向けた全国アンケート調査の結果報告
～マッチングに注目して

渡邊大輔

(成蹊大学, 国際長寿センター)

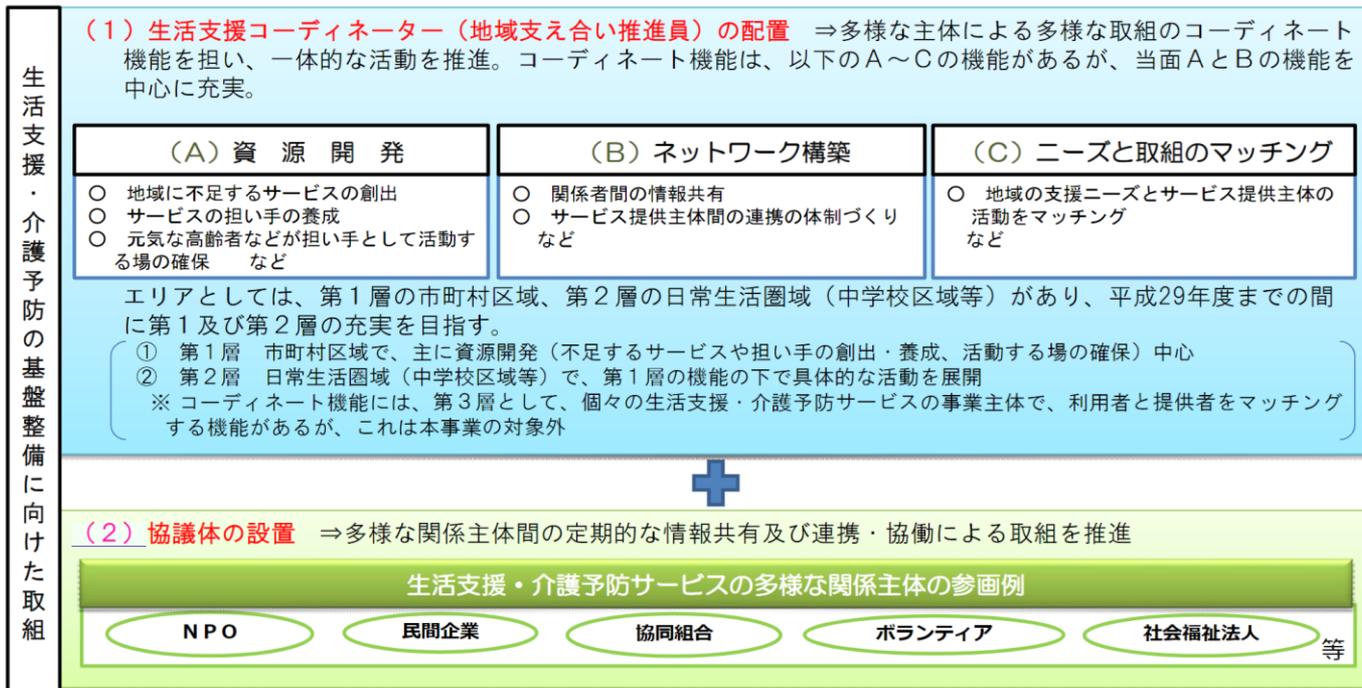
本日の報告

- ▶ 今年度に実施した生活支援コーディネーター(以下、SC)の全国オンライン調査結果の紹介
- ▶ マッチングの実践(前半)
- ▶ SCの意識(後半) に注目

なぜマッチングか？

- ▶ 生活支援体制整備事業の最後のピース
- ▶ リンクワーカーなどによる海外実践例も急増

生活支援・介護予防の体制整備におけるコーディネーター・協議体の役割



※コーディネーターの職種や配置場所については、一律には限定せず、地域の実情に応じて多様な主体が活用できる仕組みとする予定であるが、市町村や地域包括支援センターと連携しながら活動することが重要

目的と概要

▶ 目的

- ▶ 全国の生活支援コーディネーター(以下、SC)の活動状況や活動に関する意識について調査し、SCの活動基盤の強化について検討すること

▶ 調査対象と方法

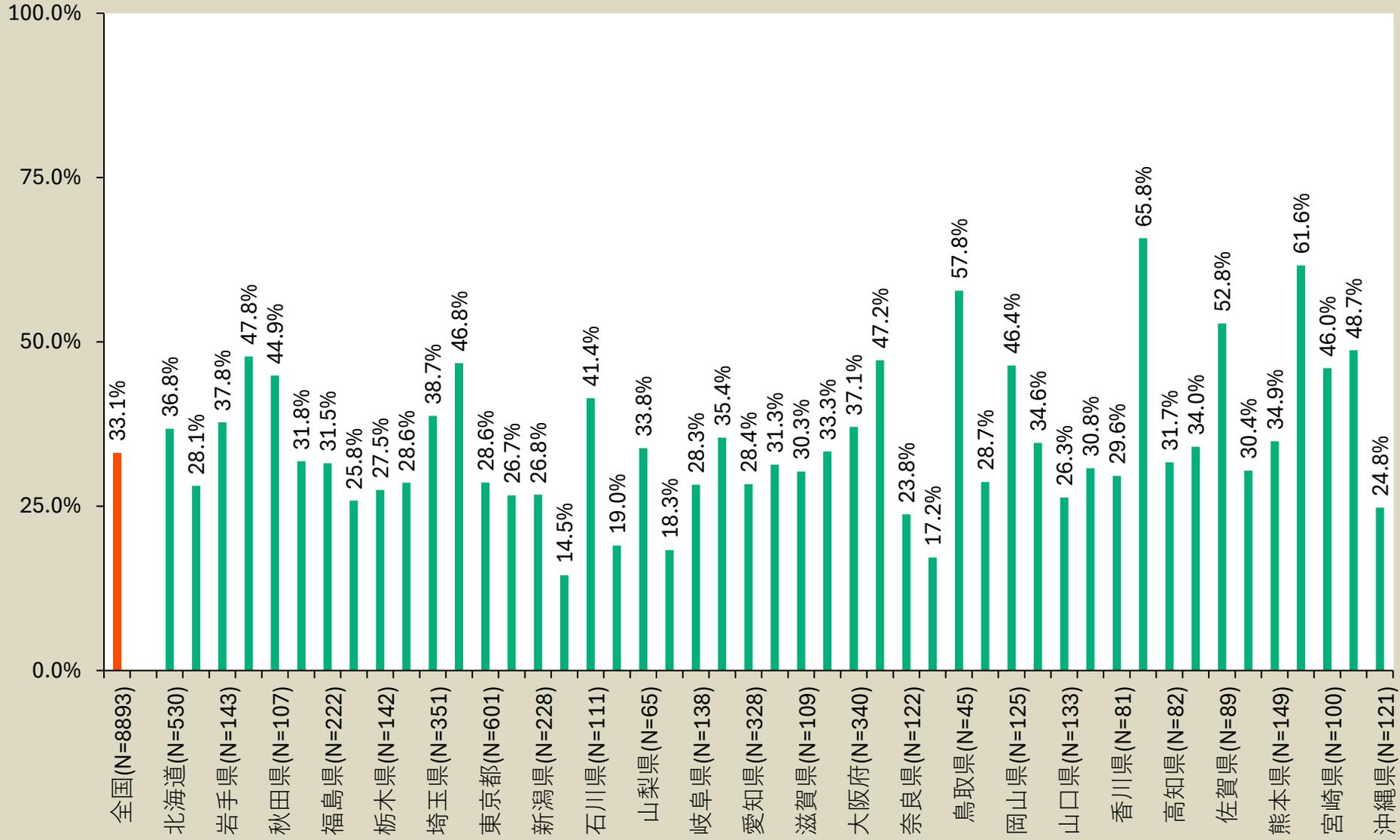
- ▶ 全国の現役の生活支援コーディネーター(第1層または第2層)8,893人
- ▶ 2023年12月6日-2024年1月12日に調査

有効回答数

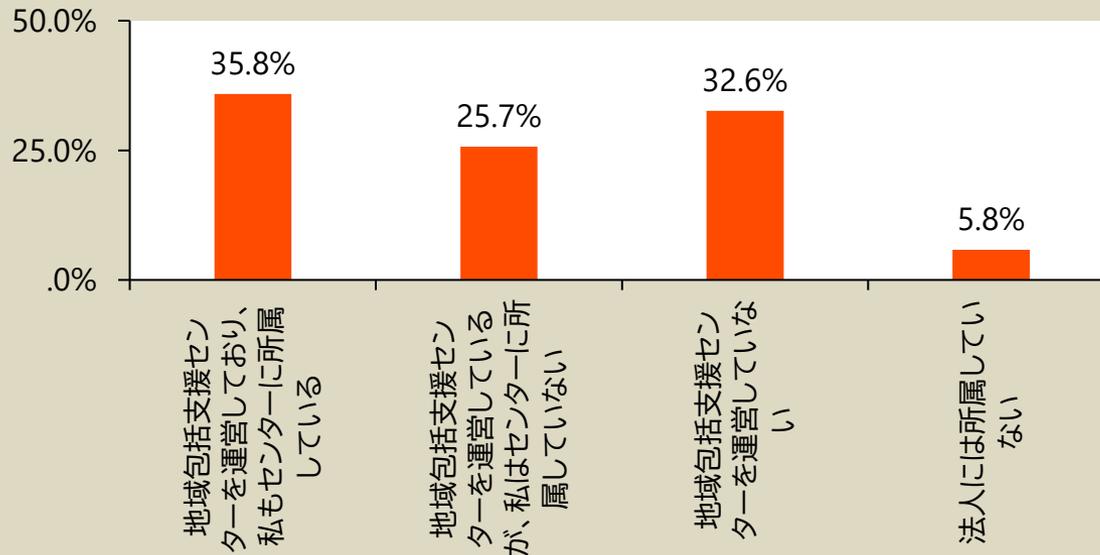
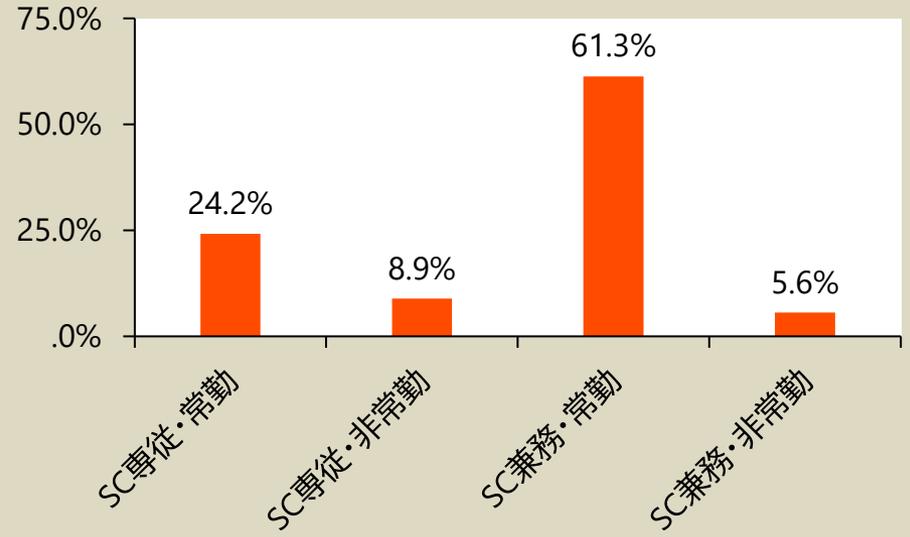
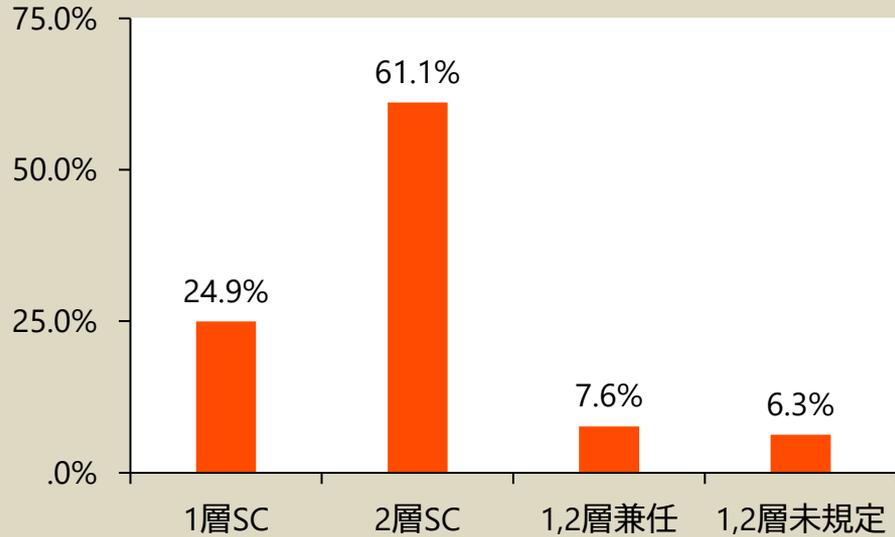
- ▶ 回答数3,051、有効回収数2,946
- ▶ 有効回収率33.1%
 - ▶ 計画標本は全国の現役のSC(8,893人)

	回収数	回答数に 対する比率
回答数	3,051	100.0%
<無効票> 「現在は、生活支援コーディネーターではないが、過去は生活支援コーディネーターだった」に該当	17	0.6%
<無効票> 「これまで生活支援コーディネーターの経験はない」に該当	88	2.9%
有効回答数	2,946	96.6%

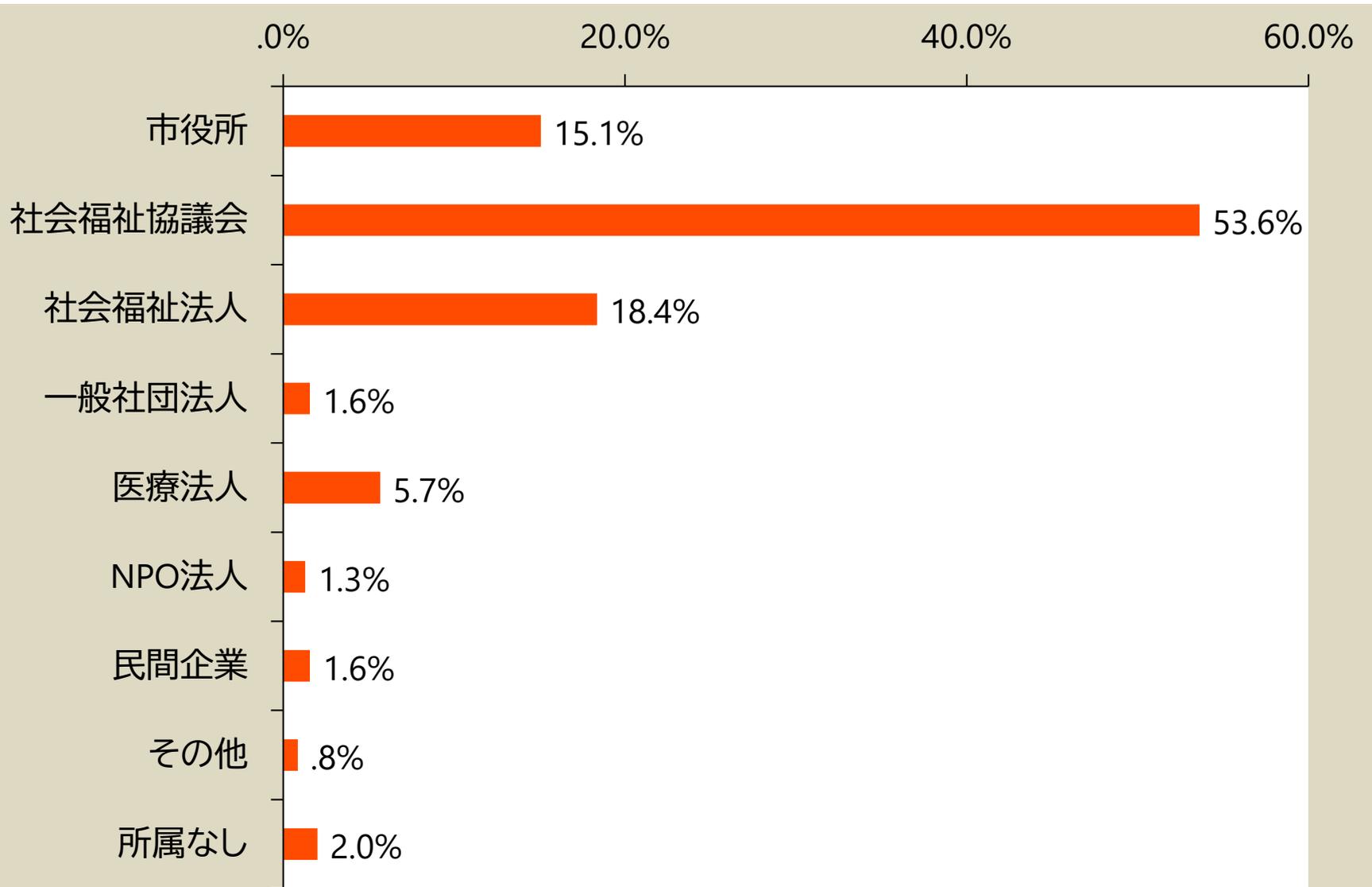
都道府県別有効回収率



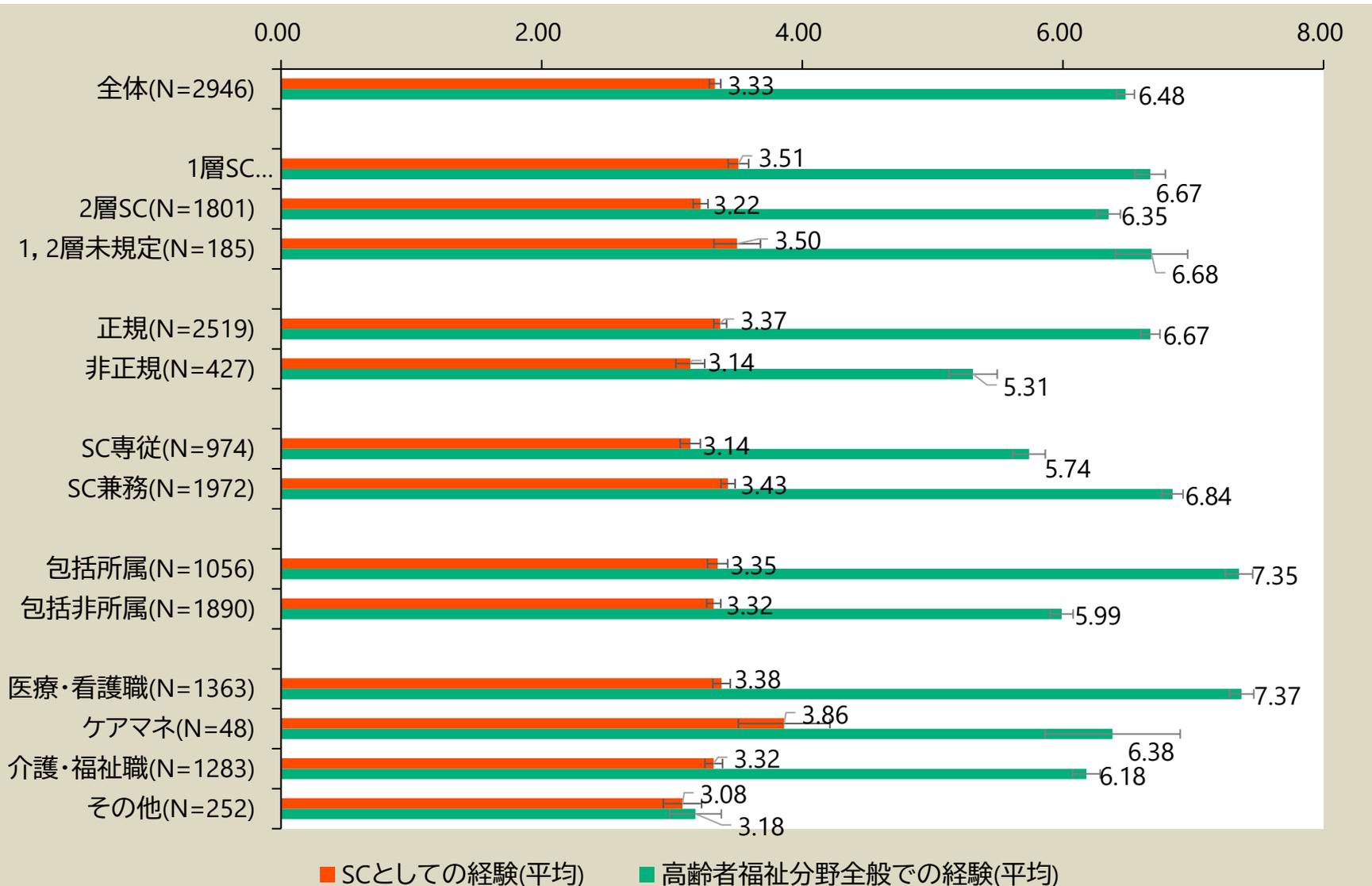
基本属性



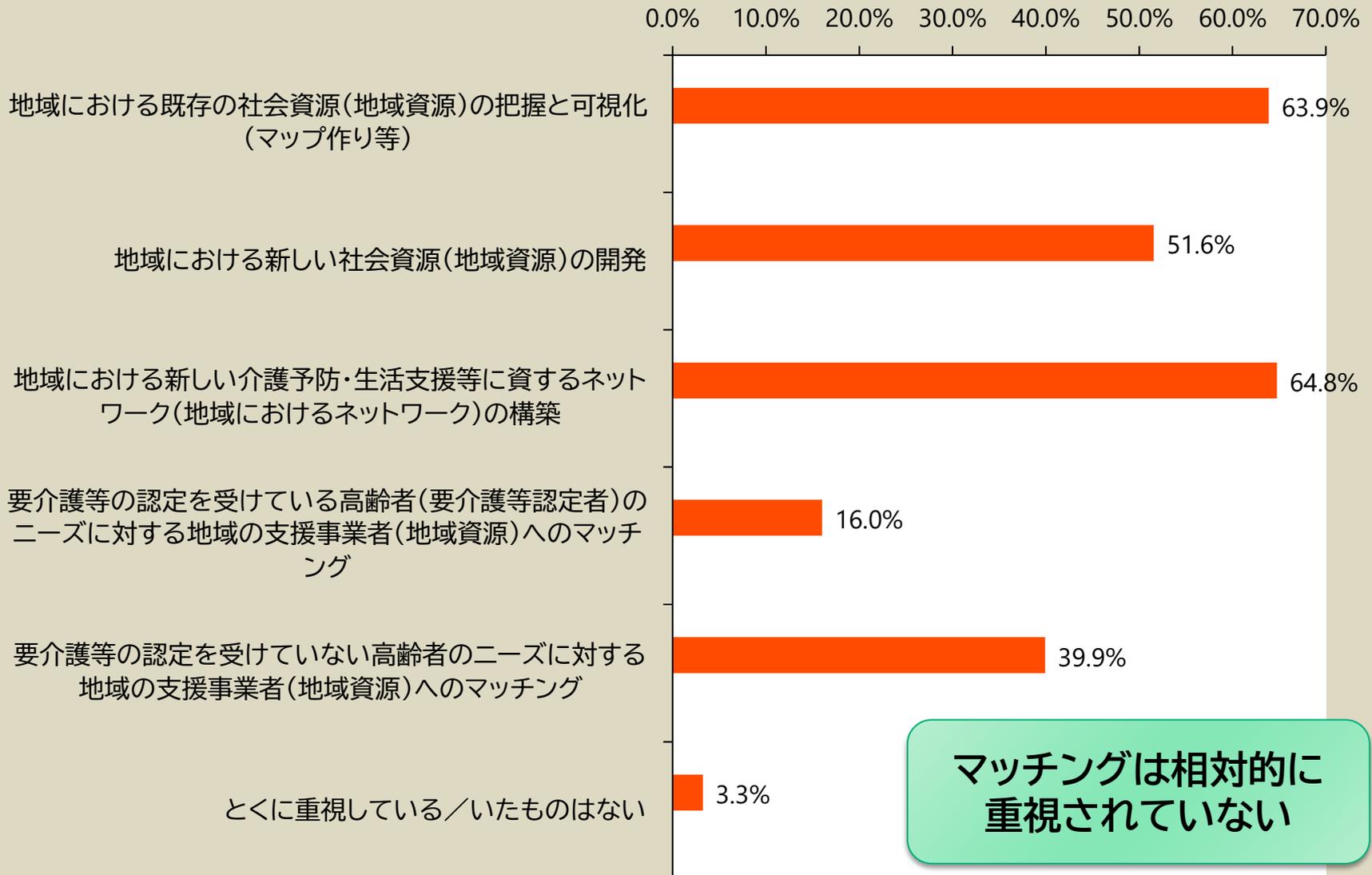
所属する法人の種類



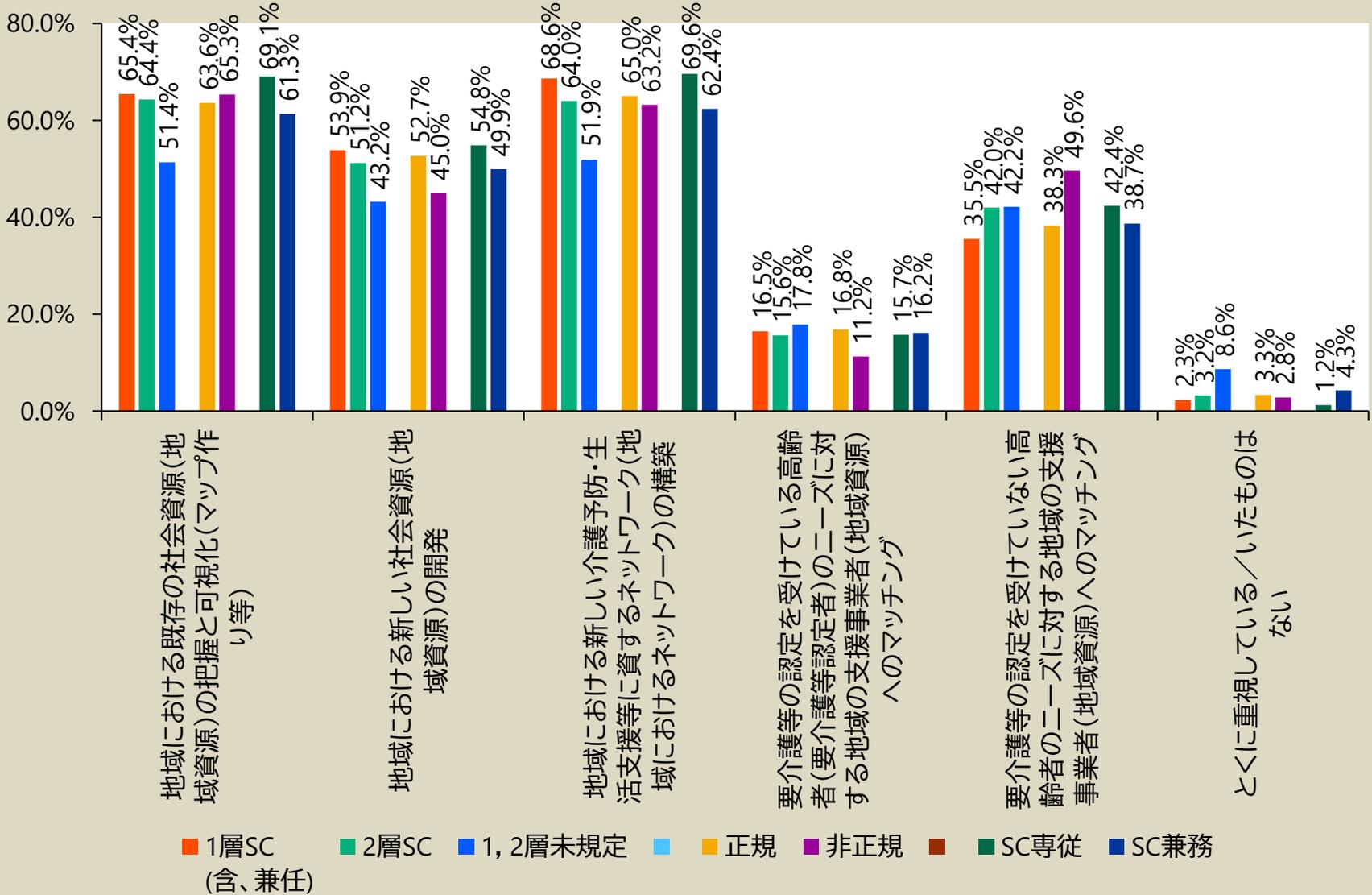
SCとして、および、高齢者福祉分野での平均経験年数



現在遂行しているSCの業務としてとくに重視している業務(上位3項目まで)

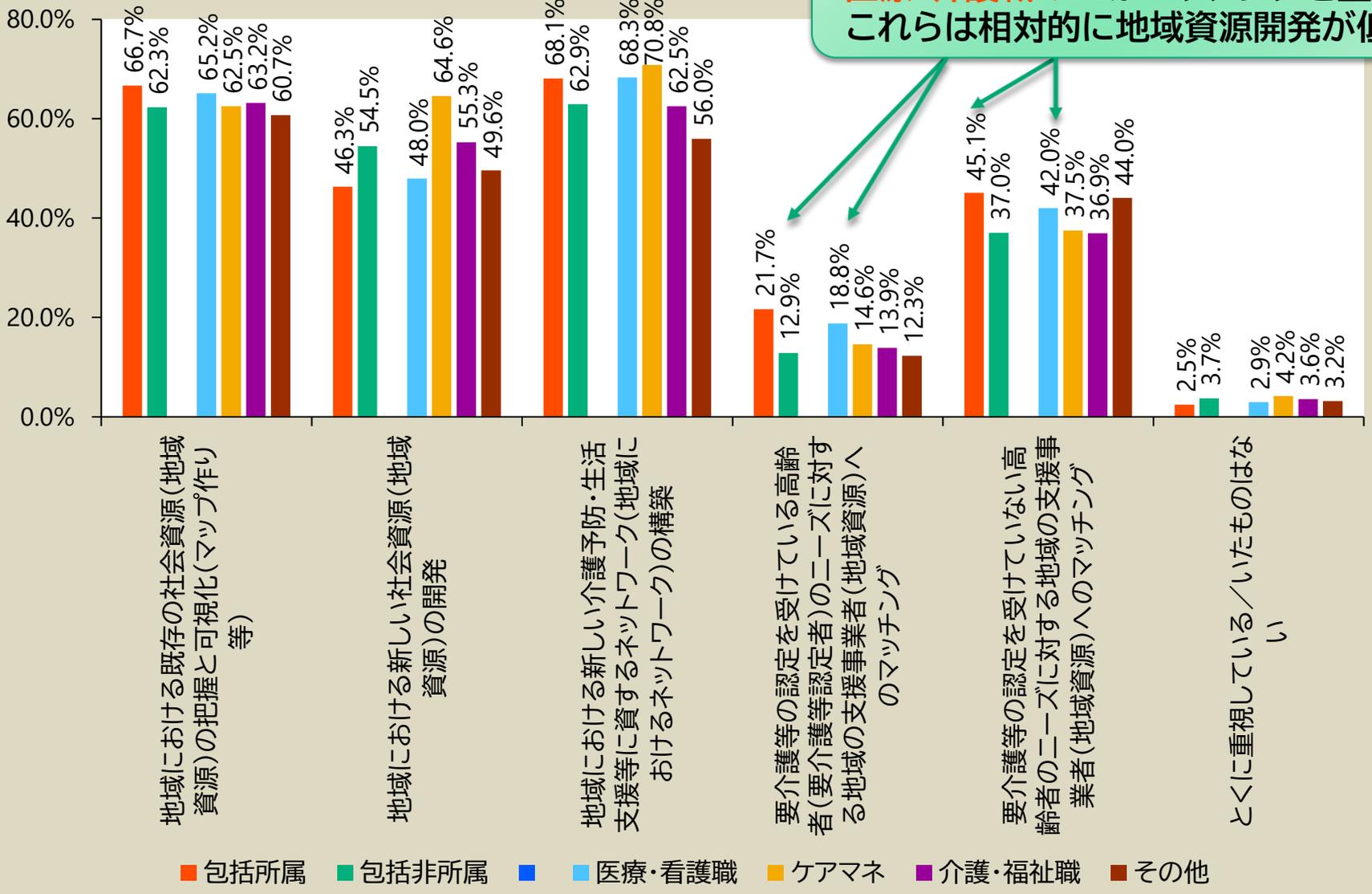


属性別、現在遂行しているSCの業務としてとくに重視している業務



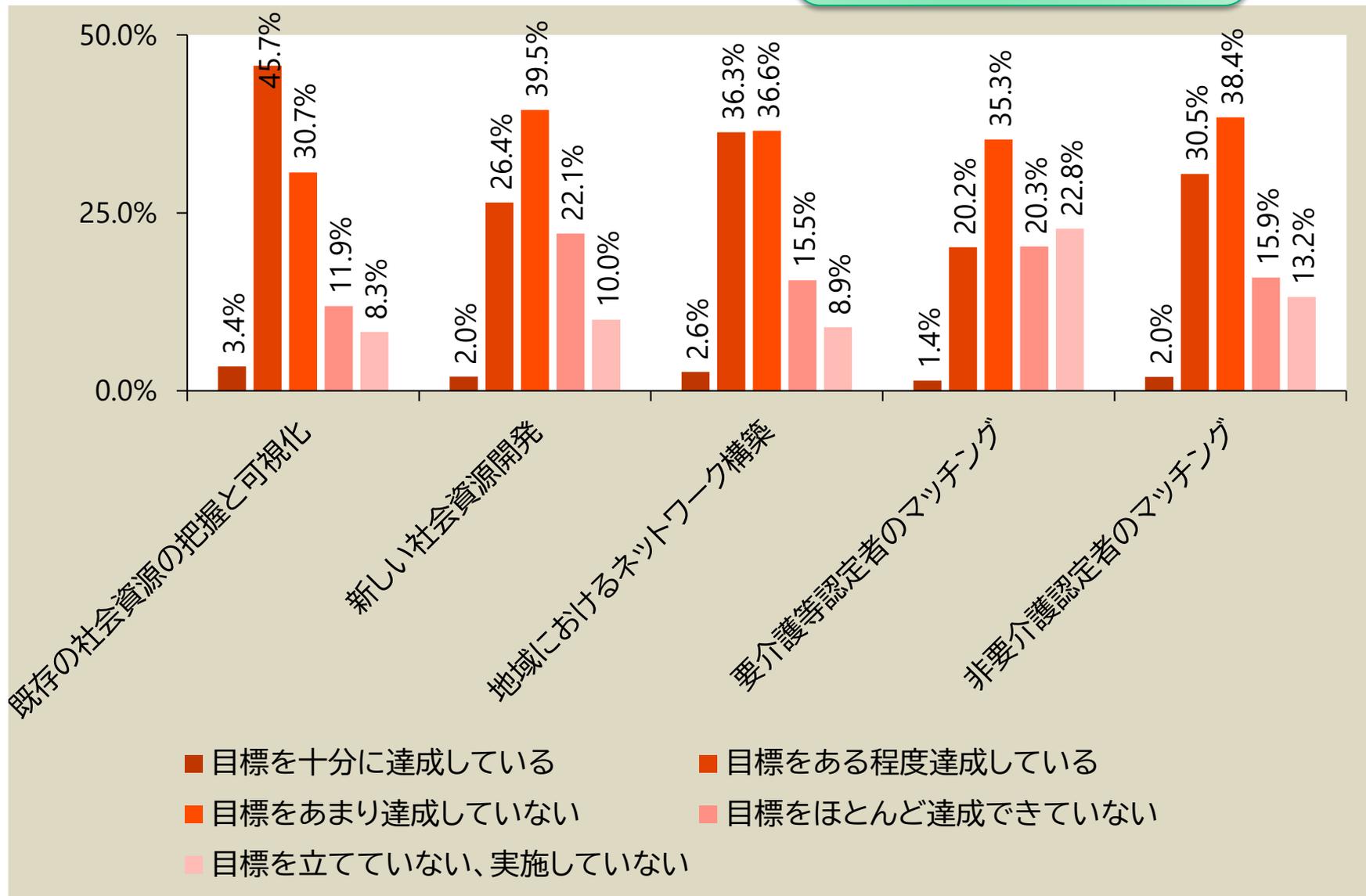
属性別、現在遂行しているSCの業務としてとくに重視している業務

包括に所属しているSC、医療・介護職のSCがマッチングを重視。これらは相対的に地域資源開発が低い



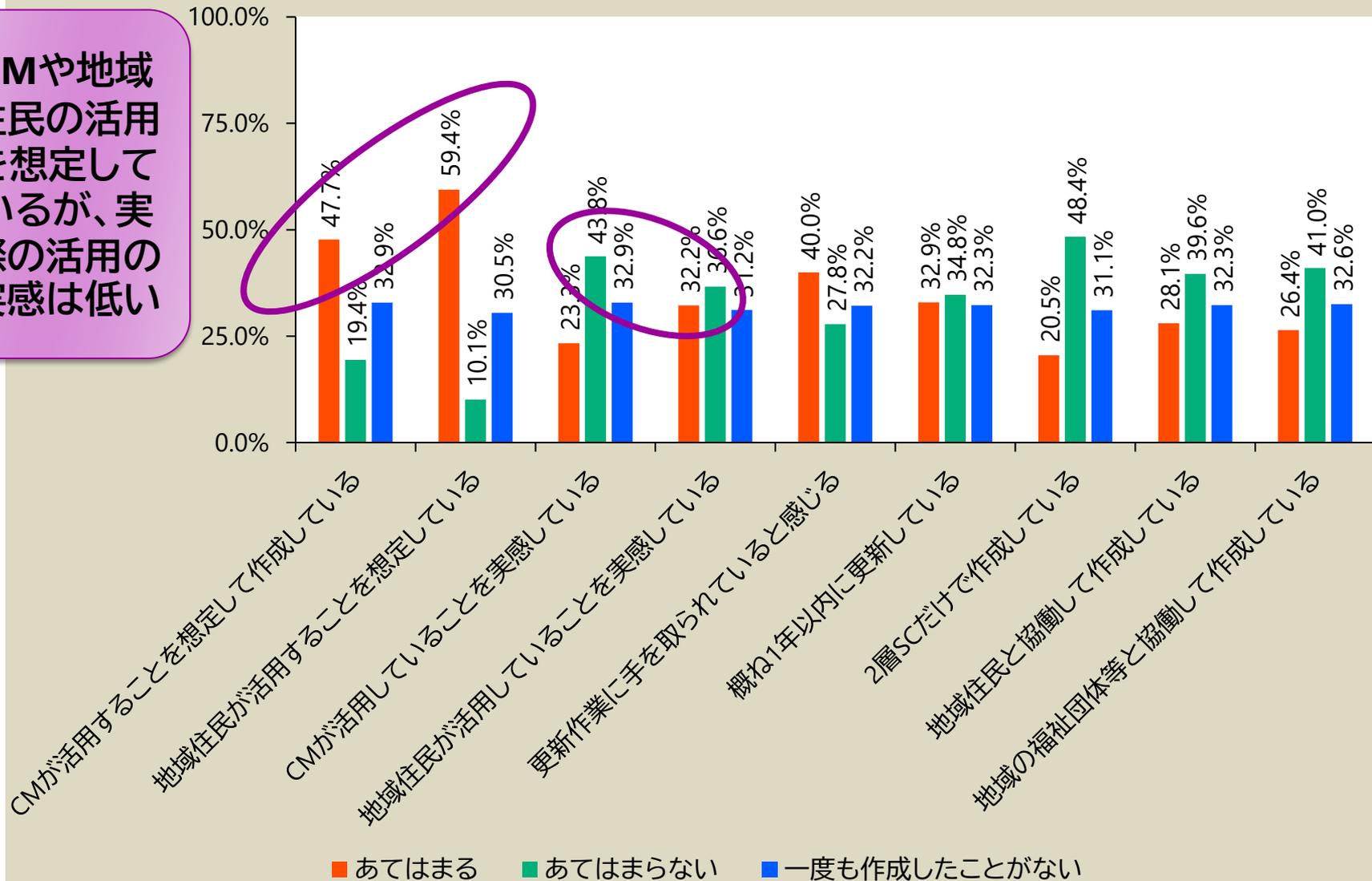
SCとしての業務達成度 (自己評価)

マッチングの評価は
他に比べてやや低い



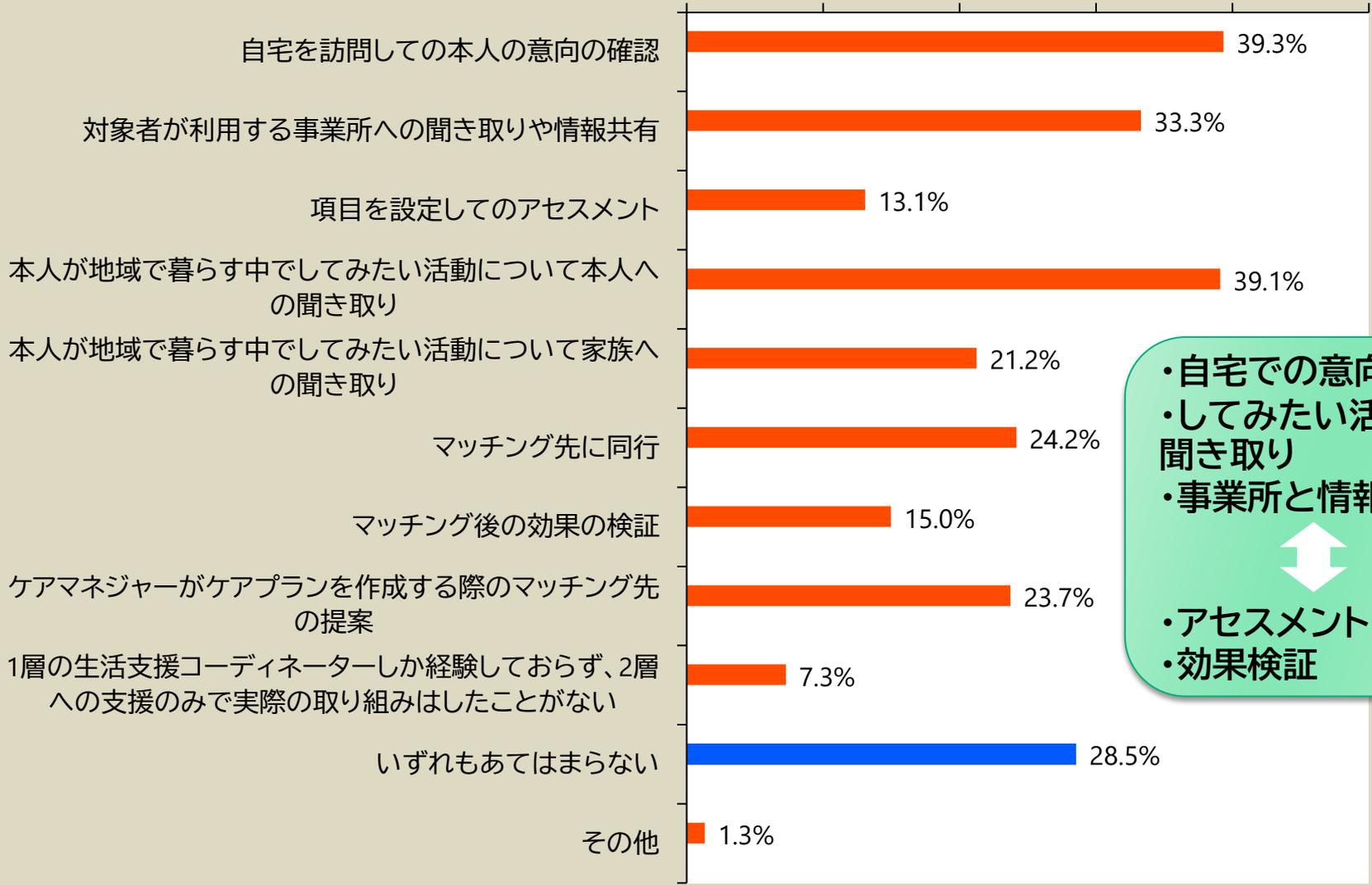
地域における既存の社会資源(地域資源)のマップや地域資源の一覧表の作成について

CMや地域住民の活用を想定しているが、実際の活用の実感は低い



要介護認定を受けている高齢者のニーズに対する地域資源へのマッチング経験

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%



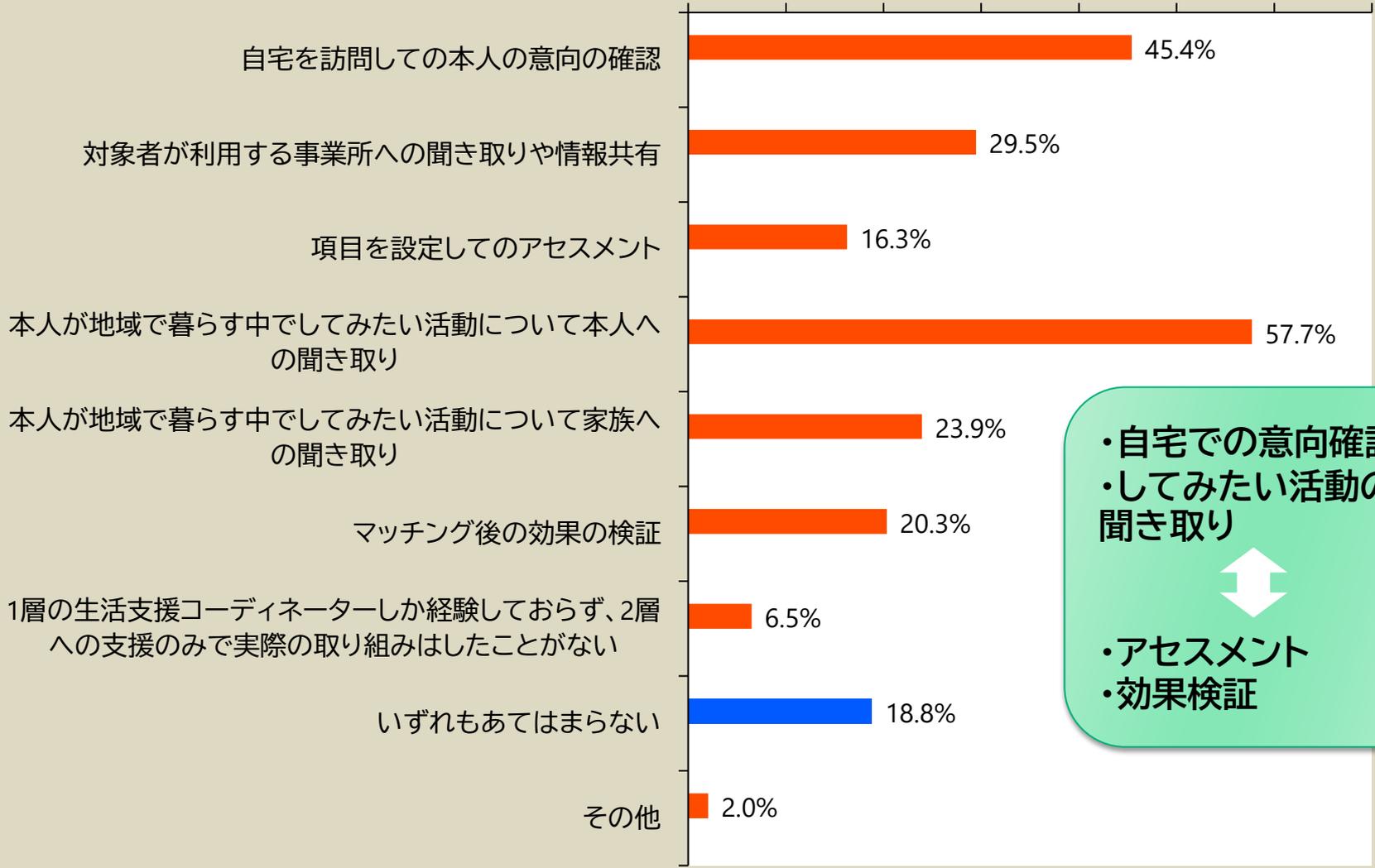
- ・自宅での意向確認
- ・してみたい活動の聞き取り
- ・事業所と情報共有



- ・アセスメント
- ・効果検証

要介護認定を受けていない一般高齢者のニーズに対する地域資源へのマッチング経験

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0%

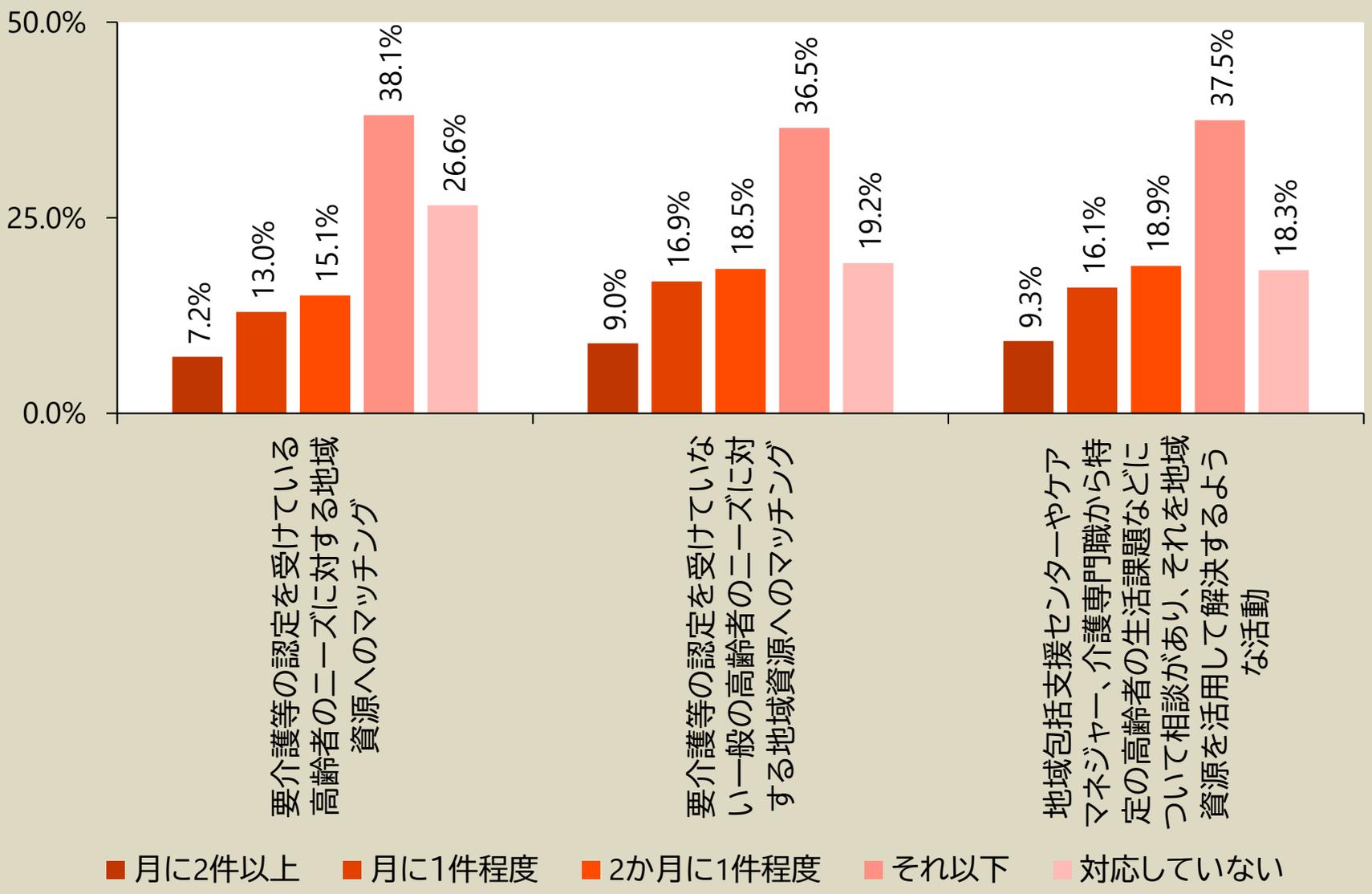


• 自宅での意向確認
• してみたい活動の聞き取り

⇕

• アセスメント
• 効果検証

地域包括支援センターやCM、介護専門職からの特定の高齢者の生活課題の相談対応頻度



■ 月に2件以上 ■ 月に1件程度 ■ 2か月に1件程度 ■ それ以下 ■ 対応していない

相談対応頻度のクロス表

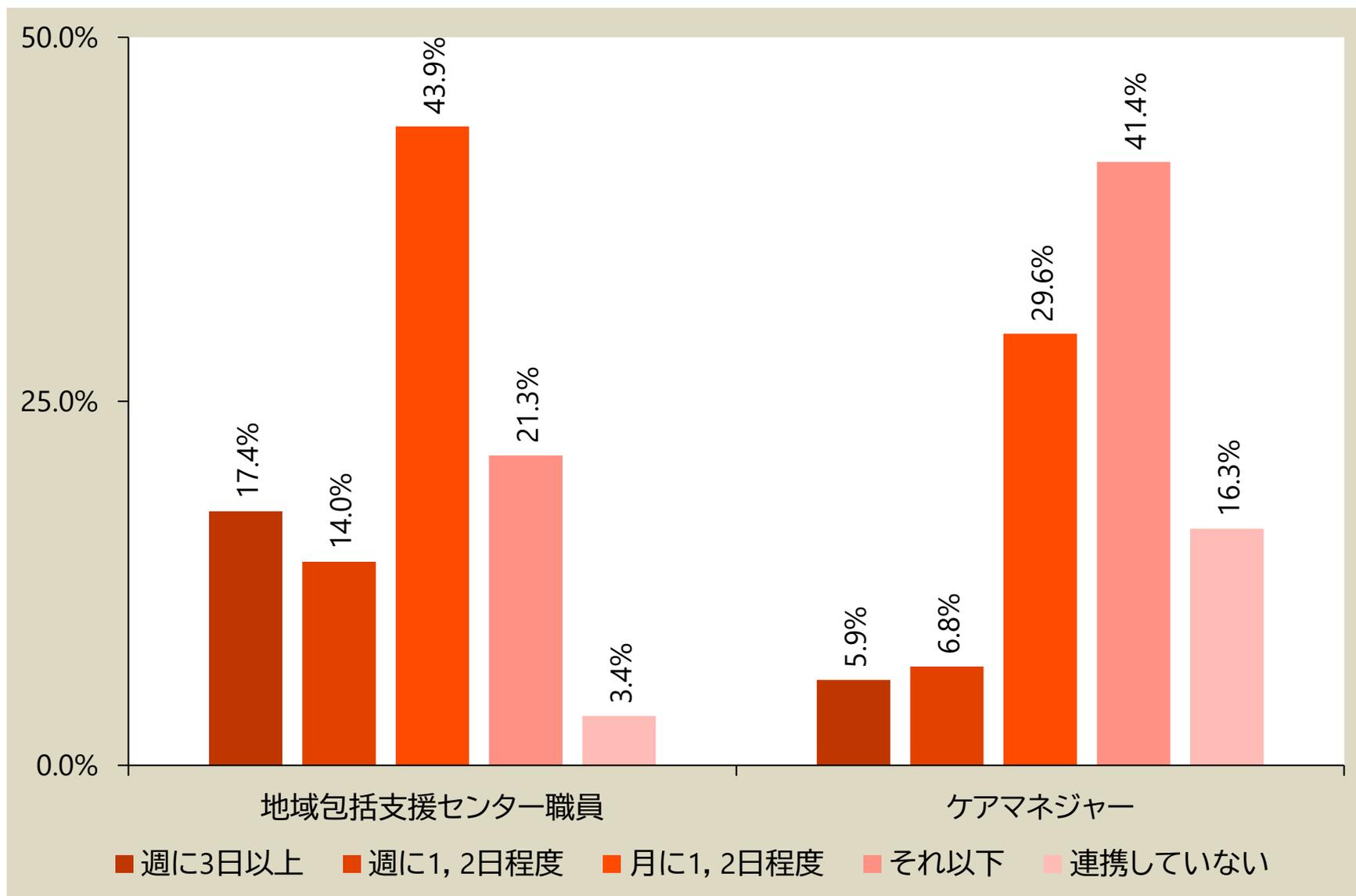
マッチングをするSCは、要介護、特定の、一般の高齢者問わず対応し、対応しないSCはいずれも行わない

地域包括支援センターやCM、介護専門職から特定の高齢者の生活課題などについて相談があり、それを地域資源を活用して解決するような活動

		月に2件以上	月に1件程度	2か月に1件程度	それ以下	対応していない
月に2件以上		169 (64.0%)	52 (19.7%)	26 (9.8%)	14 (5.3%)	3 (1.1%)
要介護等の認定を受けていない一般の高齢者のニーズに対する地域資源へのマッチング	月に1件程度	61 (12.3%)	272 (54.7%)	98 (19.7%)	53 (10.7%)	13 (2.6%)
	2か月に1件程度	23 (4.2%)	81 (14.9%)	283 (52.0%)	142 (26.1%)	15 (2.8%)
	それ以下	10 (0.9%)	51 (4.7%)	132 (12.3%)	801 (74.5%)	81 (7.5%)
	対応していない	10 (1.8%)	18 (3.2%)	17 (3.0%)	94 (16.6%)	427 (75.4%)

比率は行パーセント

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のCMとの連携頻度



マッチングについてのまとめ

- ▶ 資源開発、ネットワーク構築にくらべてマッチングは重視されておらず、実践も少ない。業務達成についての自己評価も低い。
- ▶ ただし、マッチングを行っていないわけではなく要介護者へは71.5%、一般高齢者へは81.2%のSCがマッチングを経験(むしろ、資源マップのほうが経験率は低い)
- ▶ その遂行頻度には大きな差があり、行っている人は様々な人(要介護、一般、特定)にいずれも行っているが、行っていない人はほとんど対応していない
- ▶ 紹介元となりやすい包括、CMとの連携についてはCMとの連携頻度が低い傾向にある



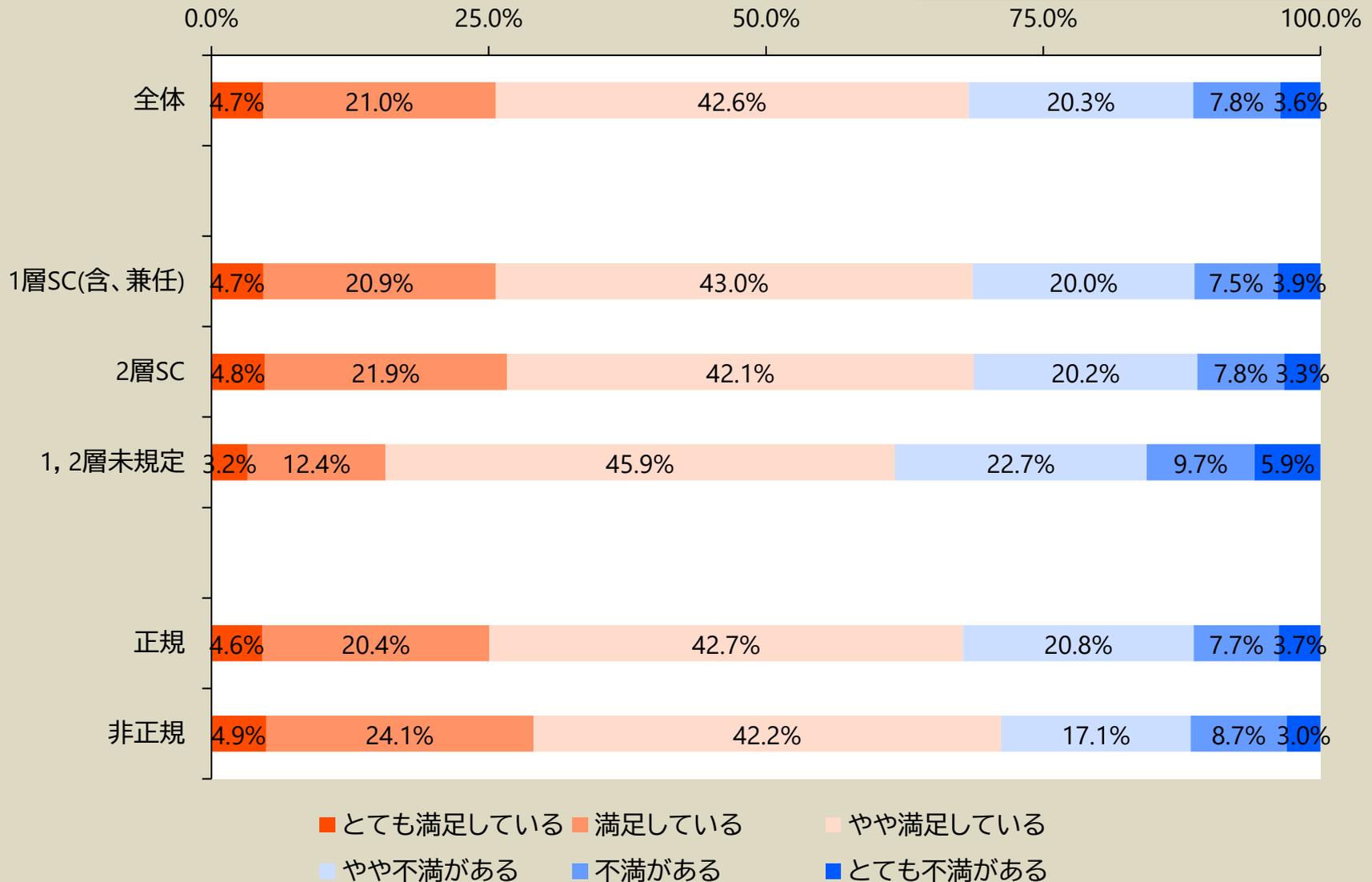
生活支援コーディネーターの活動基盤の強化に向けた全国アンケート調査の結果報告
～SCの意識に注目して

渡邊大輔

(成蹊大学, 国際長寿センター)

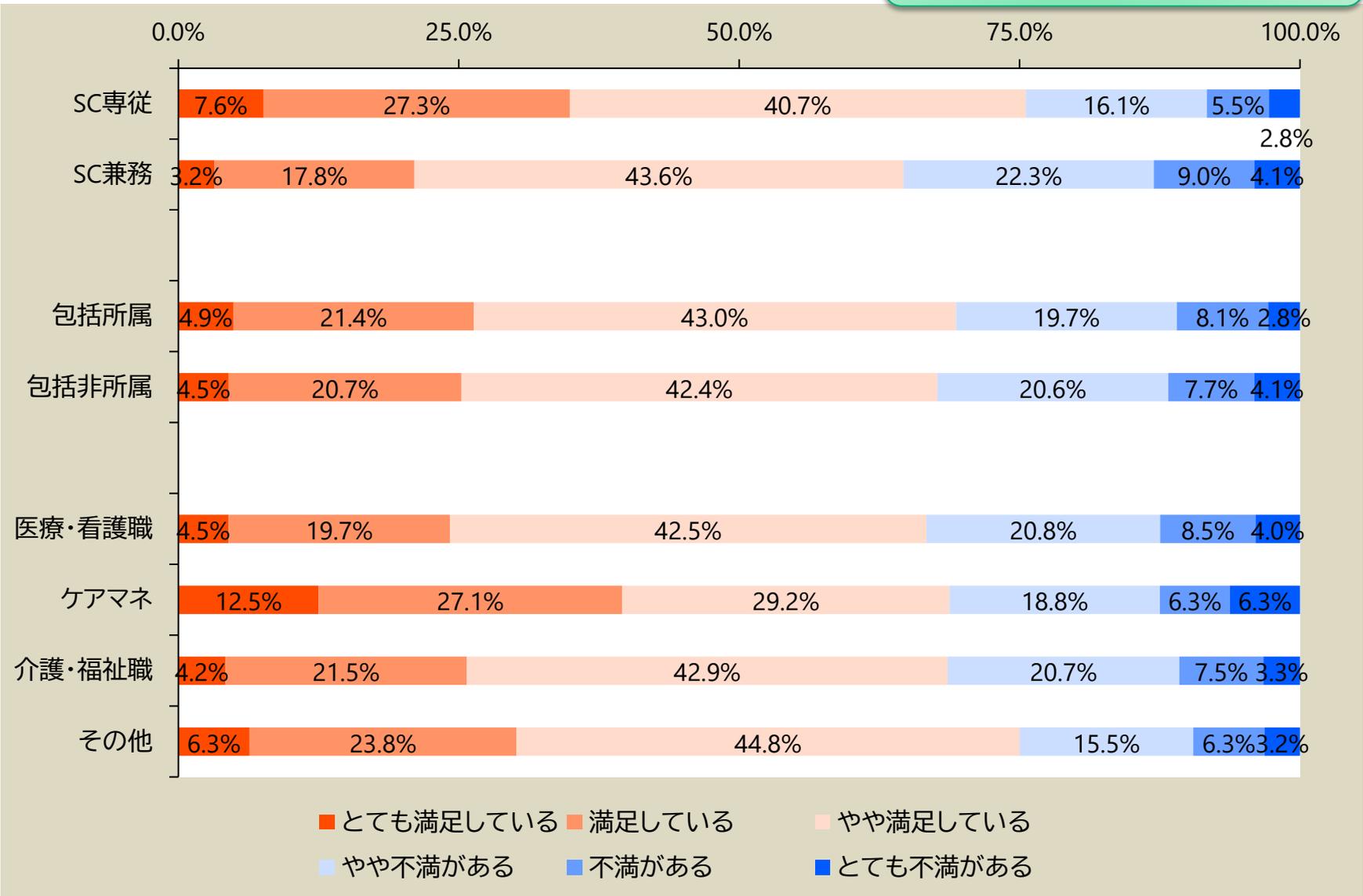
属性別、SCの仕事満足度

3分の2が満足
3分の1は不満



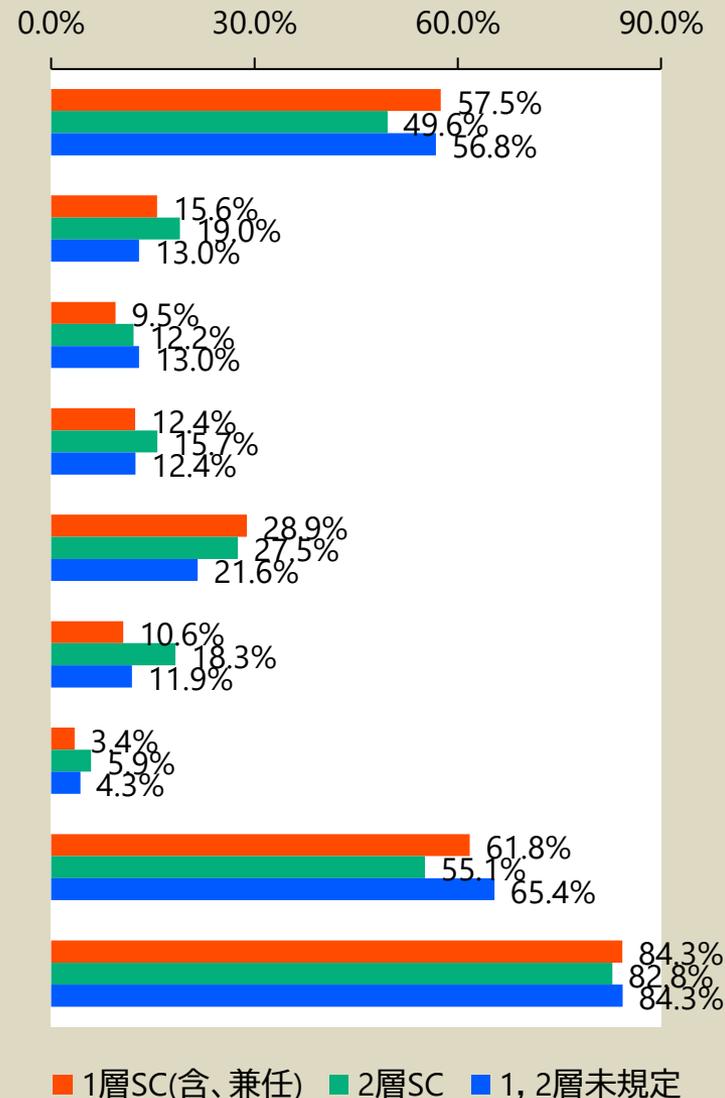
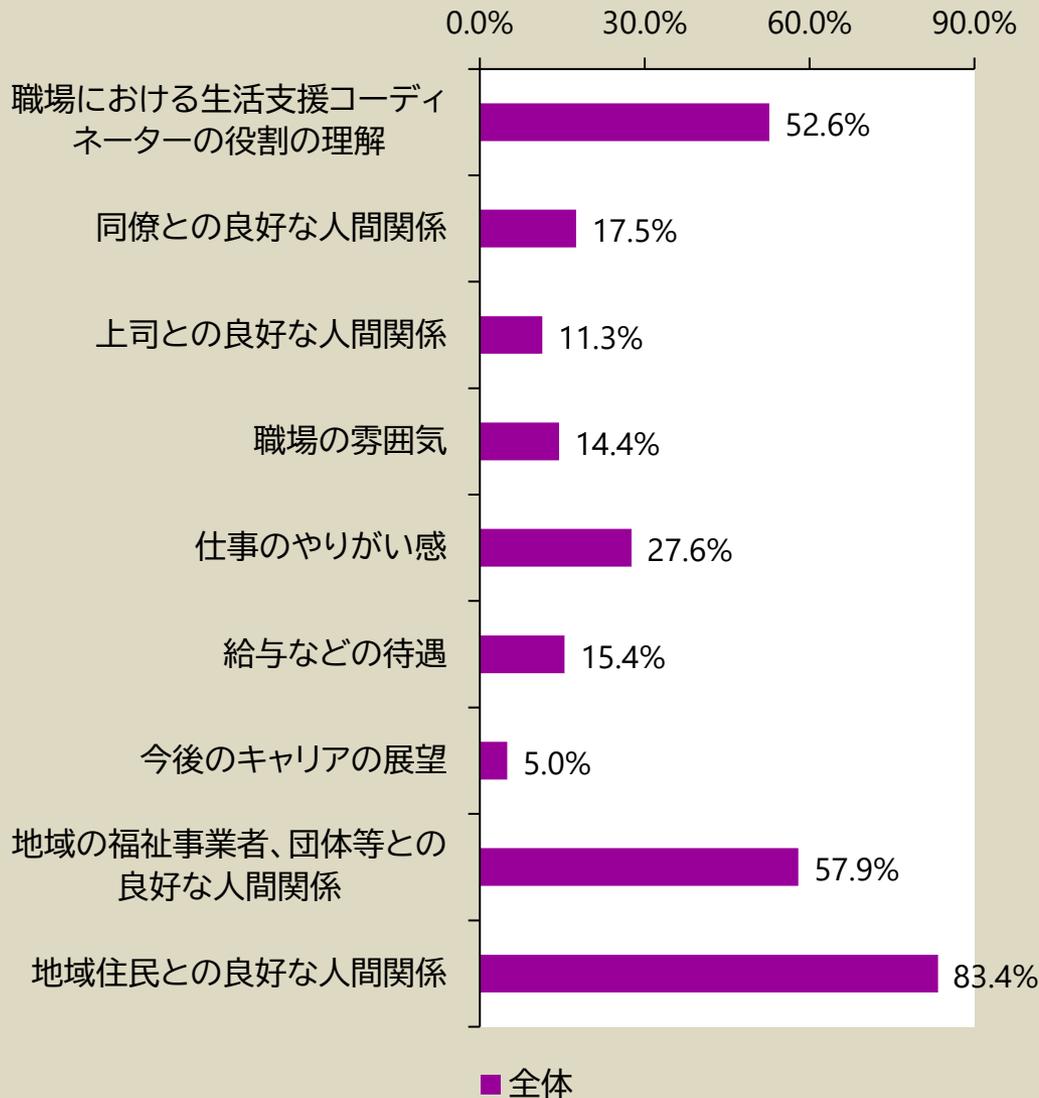
属性別、SCの仕事満足度

SC専従者の満足度が高い

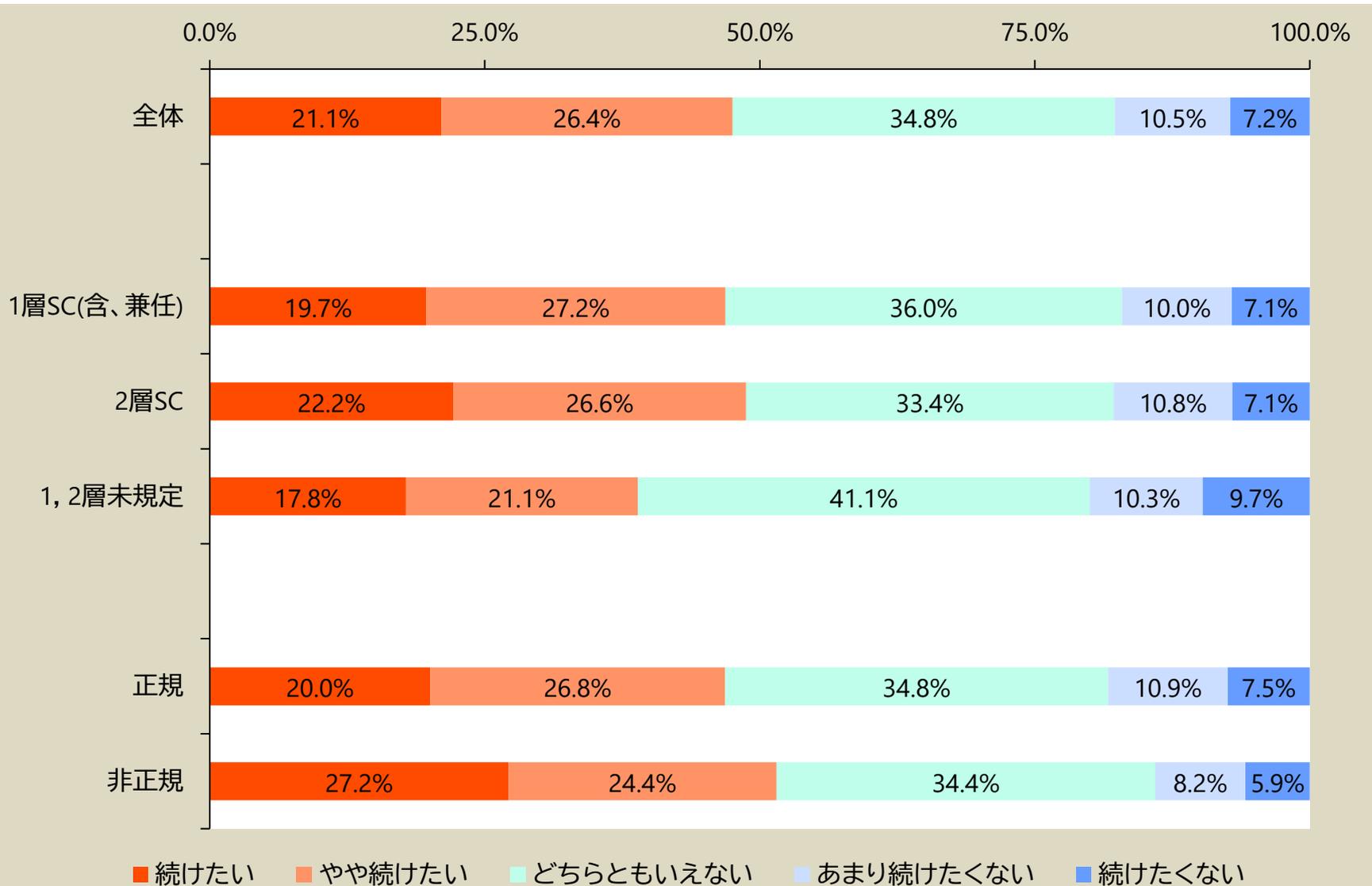


SCを継続するうえでの大切な点

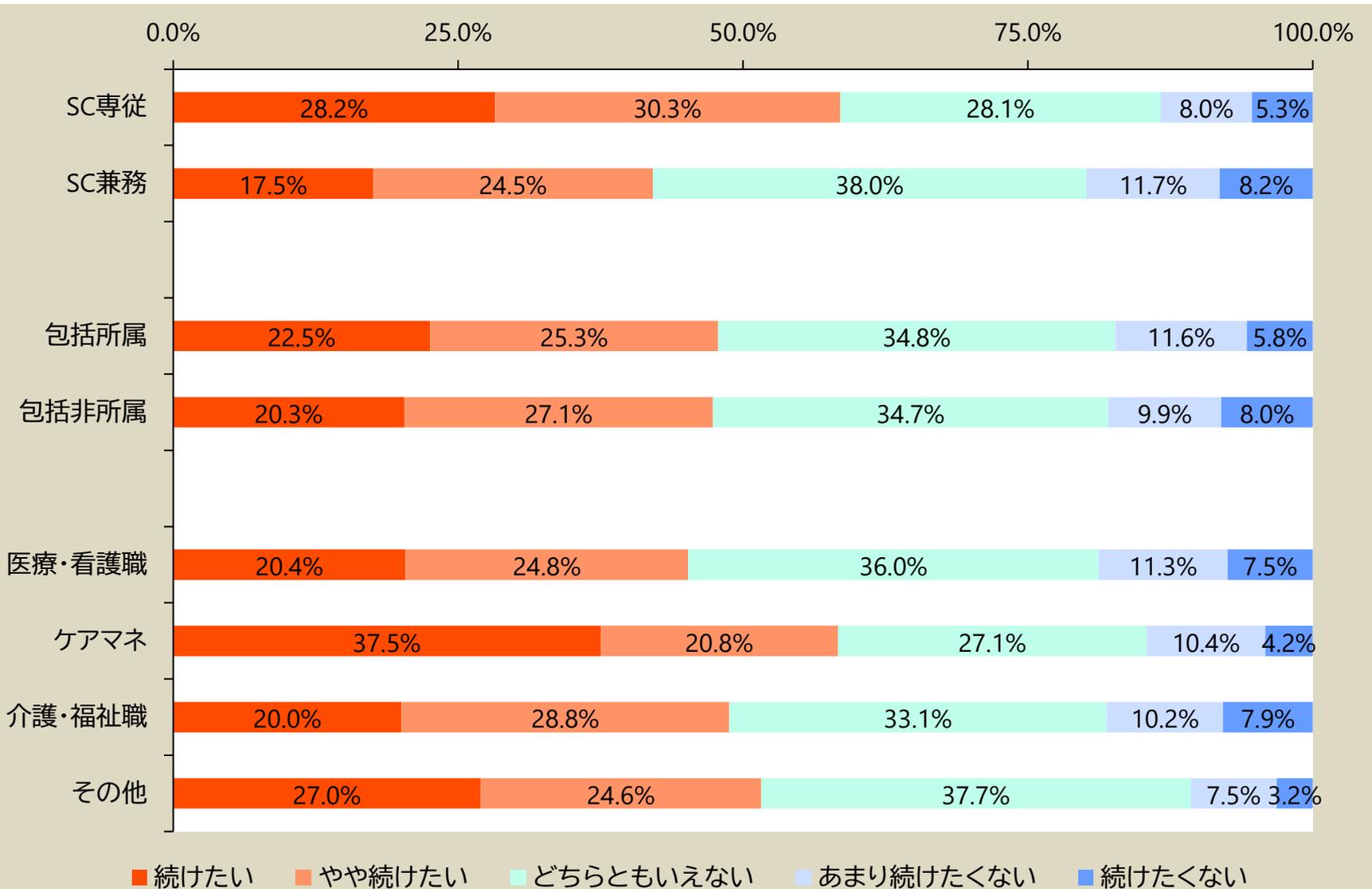
地域住民や関係団体の関係
が最大の継続要因
加えて、SCの役割の理解



SC継続意向



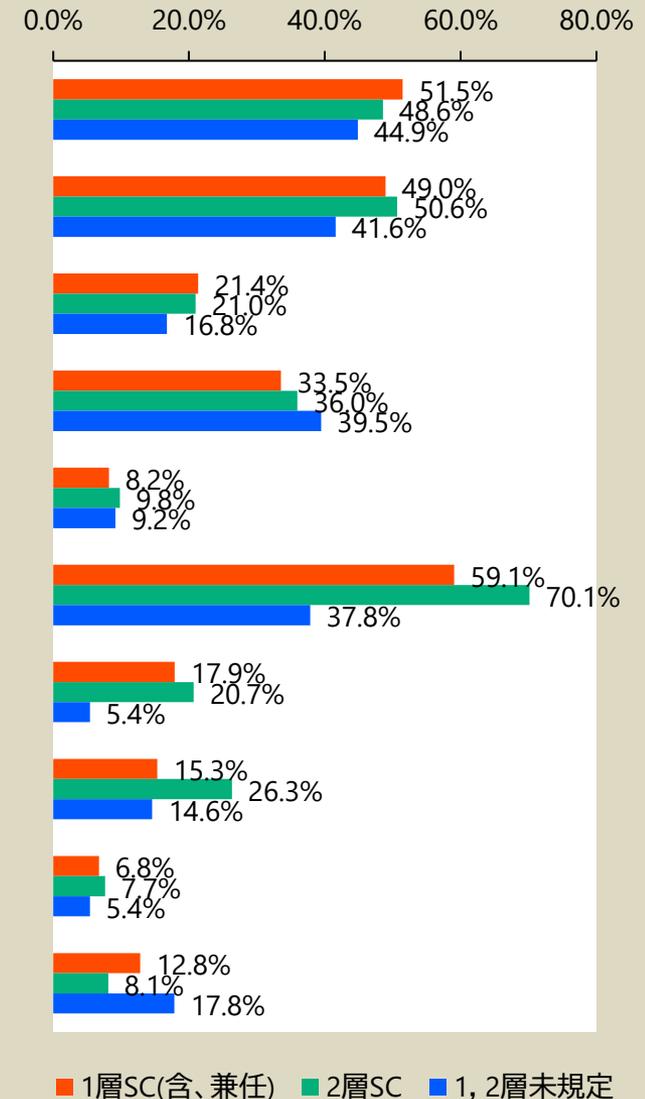
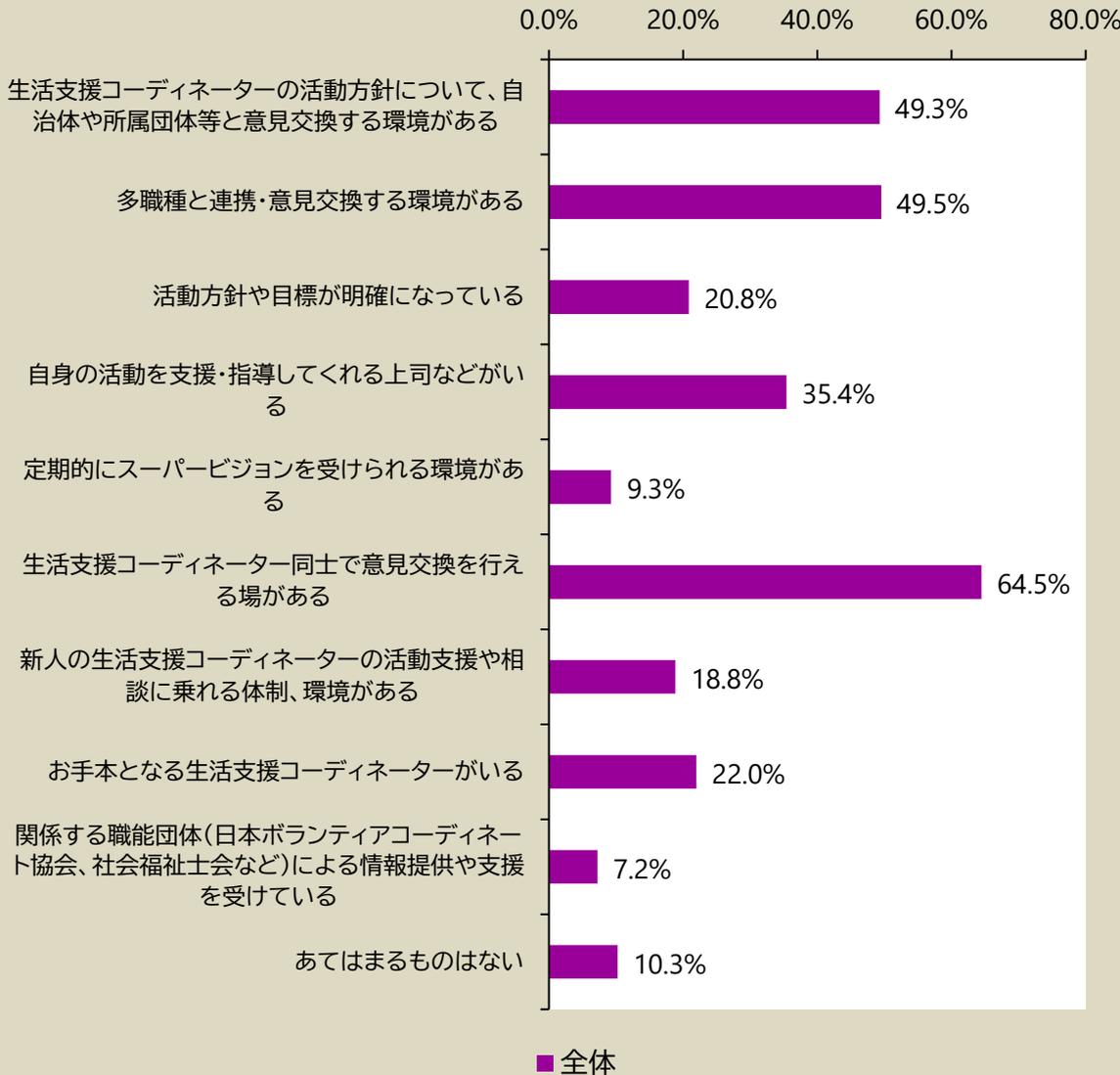
SC継続意向



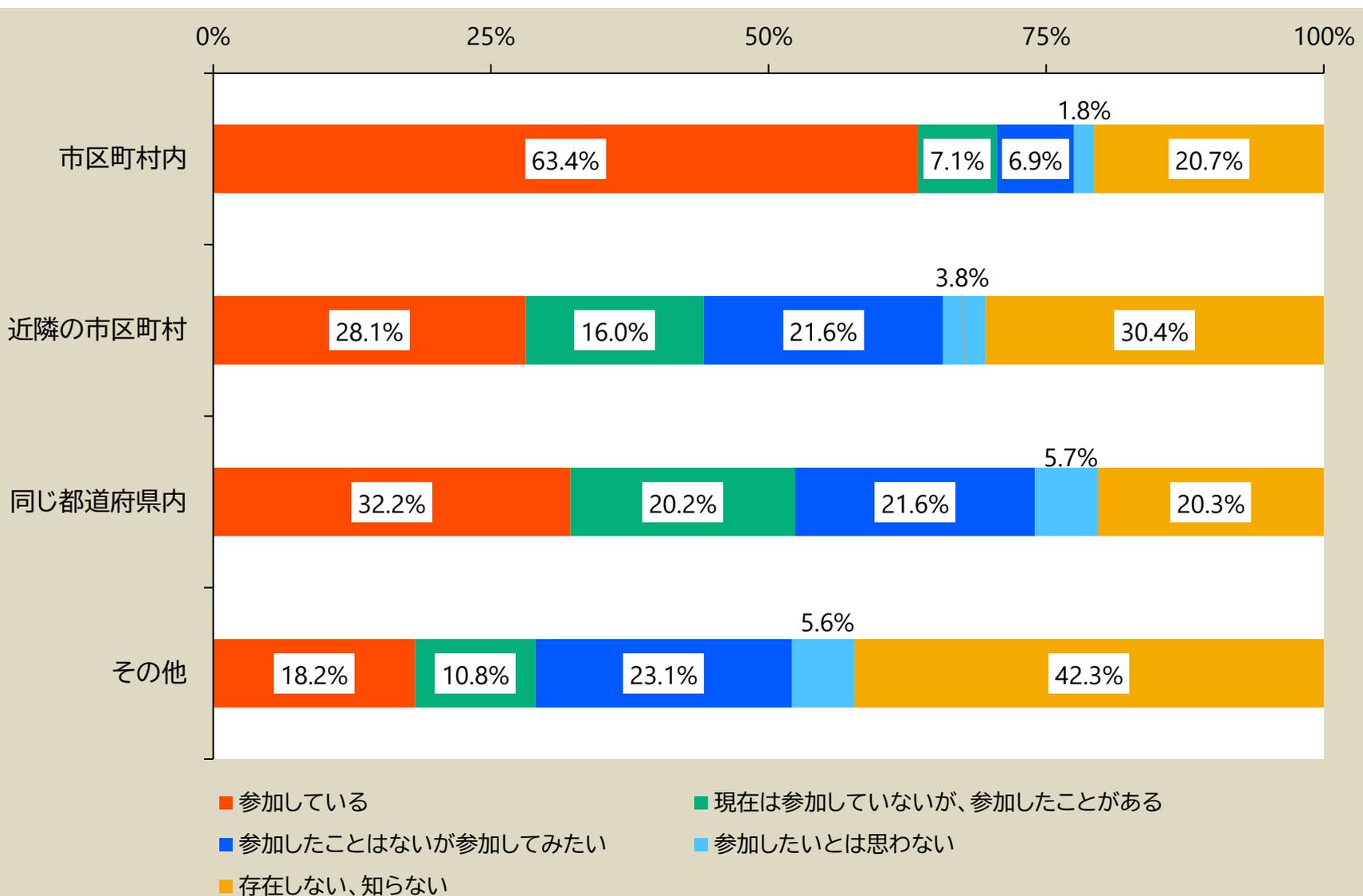
SCの孤立

- ▶ SCは孤立しやすいとよく聞く
- ▶ SCをどのように支えたらよいのか？

研修以外のSC活動を支援する仕組みの有無

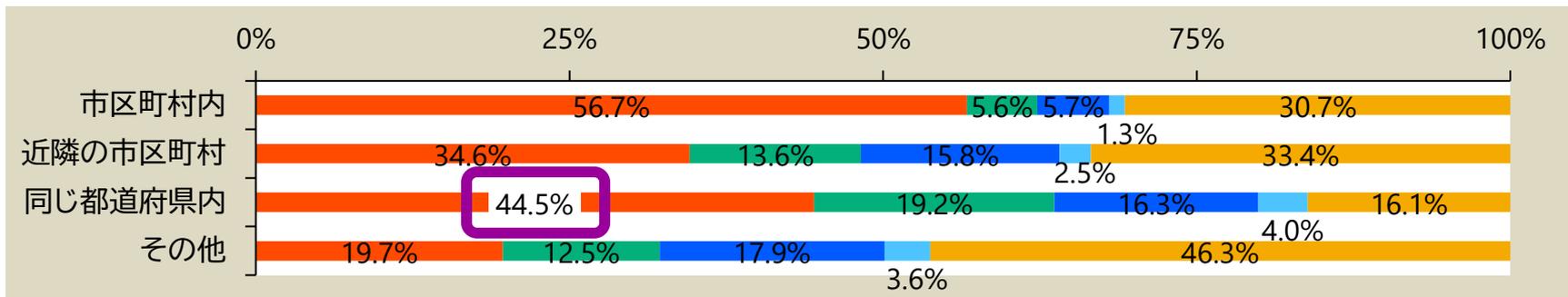


地域別のSC同士の連絡会や意見交換会の参加状況

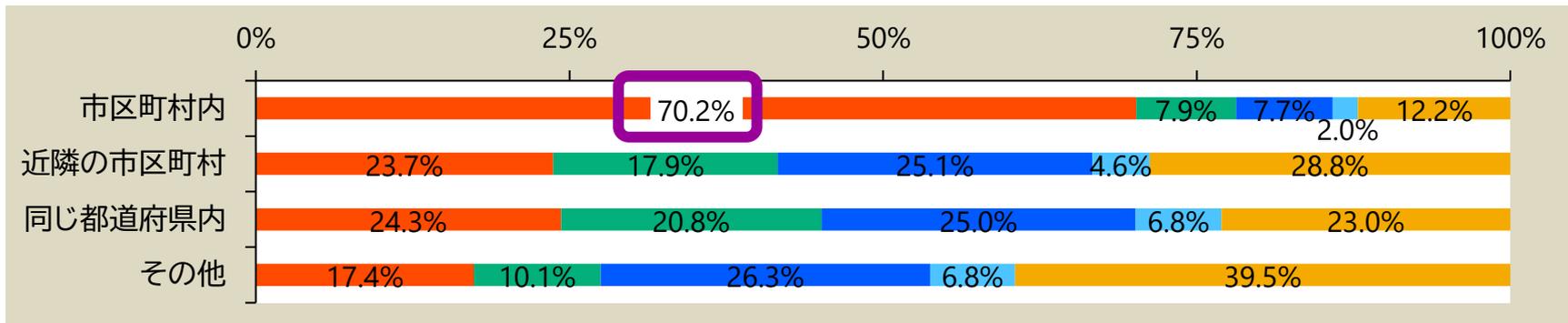


地域別のSC同士の連絡会や意見交換会の参加状況

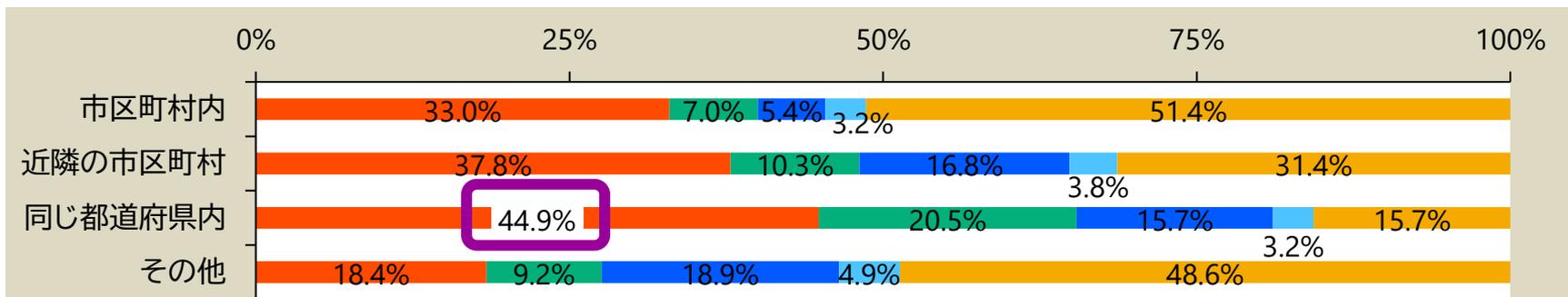
1層
SC



2層
SC



1,2層
未規定
SC



■ 参加している
 ■ 現在は参加していないが、参加したことがある
 ■ 参加したことはないが参加してみたい
■ 参加したいとは思わない
 ■ 存在しない、知らない

まとめ

- ▶ 3分の2のSCが仕事に満足
 - ▶ とくにSC専従者が高い
- ▶ 仕事の継続に大切な点としては、地域住民や関係団体との関係、および、SCの役割の理解
- ▶ 働きがいは多層的な要因があるが、とくにSCの対外関係の良好さが重要
- ▶ 1層SCや小規模自治体のSCは地域内での連絡会に参加しにくく、広域の連絡会に参加する傾向 → SCの孤立の背景

ご質問がありましたら
ご遠慮なくお寄せください

